

[成果情報名]矮性ネピアグラスの移植株の形態が定着率に及ぼす影響

[要約]矮性ネピアグラスの移植株の形態による定着率は、茎が有り根が多数ついているものが最も高く、茎がないまたは根が少ない場合は定着率が大きく低下する。

[キーワード]矮性ネピアグラス・移植株・定着率

[担当]農林技術開発センター・畜産研究部門・大家畜研究室

[連絡先]（代表）0957-68-1135

[区分]畜産

[分類]指導

[背景・ねらい]

矮性ネピアグラスは永続性に優れ、2年目以降の省力化につながる草種であり、本県での普及を推進している牧草である。矮性ネピアグラス草地の拡大は、畜産研究部門で栽培している親株を現地へ送付し、この親株をさらに現地で育成した上で再び株分けし草地を拡大するといった手法で行っている。現地での矮性ネピアグラスの親株圃場の造成時において、畜産研究部門から送付した株をさらに分割して移植したところ、定着性が非常に悪かったという事例がある。

移植時の株の形態とその後の定着性に及ぼす影響についての関係は経験的な知識しかなく不明であるため、定着に関わる要因を明らかとし、株分け時の指導の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 移植時の形態による定着率は、有茎多根区が 94.8%と有意に高い（表1）。
2. 一番草刈取り時の草丈はいずれの試験区においても差は見られず（表2）、移植株の形態は移植後の初回刈取り時期に影響しない。
3. 移植株の形態は、初年度の乾物収量に影響しない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 矮性ネピアグラス圃場の造成時において、移植用株の形態による選抜の指標として活用できる。
2. 矮性ネピアグラスの移植時期は、6月の梅雨入り前が適当であり、高い定着率を促すために、造成初年度は雑草管理が必要。
3. 試験区にかかわらず、造成初年度の乾物収量に有意差は見られなかったが、株が成長し刈取り回数が増える2年目以降では試験区による収量の差が見られる可能性がある。

[具体的データ]

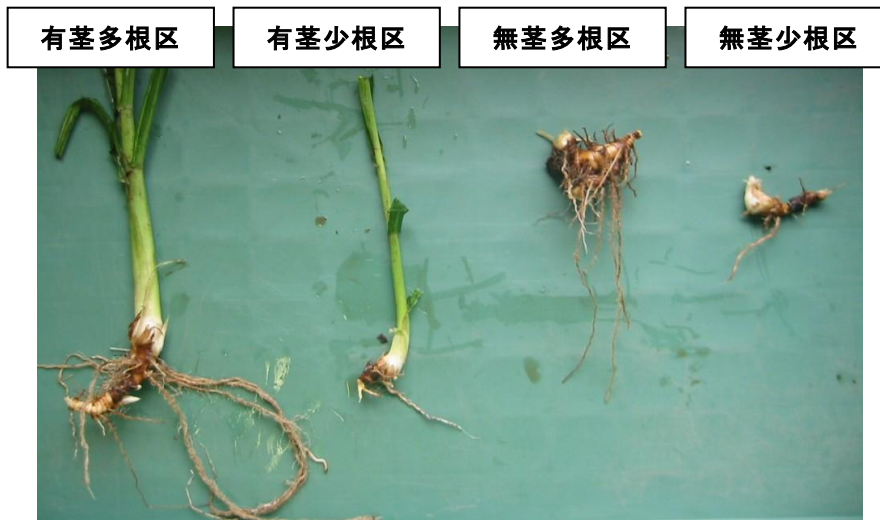


図 1. 試験区ごとの株の形態.

表1. 移植株の形態と定着率¹⁾

試験区	定着率 ²⁾ (%)
有茎多根区	94.8 ^a
有茎少根区	60.9 ^b
無茎多根区	68.2 ^b
無茎少根区	62.0 ^b

1)各區64株/16m²の3反復.
株間50cm、畝間50cm.

2)縦列異符号間に有意差あり(p<0.01).

表2. 草丈と乾物収量.

試験区	一番草		二番草		合計乾物収量 (kg/10a)
	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)	
有茎多根区	117.2	364.0	118.3	411.8	775.8
有茎少根区	115.0	271.5	125.4	344.4	615.9
無茎多根区	117.8	431.9	120.6	404.8	836.7
無茎少根区	118.5	317.1	122.0	403.2	720.3

注)移植日はいずれの試験区も平成22年6月14日.

刈取日は一番草:8月24日、二番草:9月24日.

[その他]

研究課題名: 矮性ネピアグラス草地における利用期間の延長技術の検討

予算区分: 県単

研究期間: 2010 年度

研究担当者: 溝口泰正、緒方剛、上野健、川口雅彦